

バリューチェーンを超えた緩和(BVCM) に関する報告書: 深掘りウェビナー

2024年3月21日

グローバルウェビナー

アジェンダ

1. 挨拶
2. さらなる高みを目指して:BVCMの策定と実施に関するSBTi報告書
3. ハードルを上げる:企業のBVCM導入を加速させるためのSBTi報告書
4. ゲストスピーカー:ゴールドスタンダード、VCMI、LEAF連合
5. Q&A
6. 閉会

本日の登壇者 (午前の部)



Scarlett Benson
(スカーレット・
ベンソン)

SBTi
BVCMリーダー



Alice Farrelly
(アリス・ファーレリー)

SBTi
シニアアナリスト - Net Zero



Alberto Carrillo(アル
ベルト・カリリョ)

SBTi
最高技術責任者



Owen Hewlett
(オーウェン・
ヒューレット)

ゴールドスタンダード
最高技術責任者



Mark Kenber
(マーク・ケンバー)

VCMI
エグゼクティブディレクター



Eron Bloomgarden
(イロン・ブルームガー
デン)

Emergent
最高経営責任者

本日の登壇者 (午後の部)



Scarlett Benson
(スカーレット・ベンソン)

SBTi
BVCMリーダー



Paulina Tarrant (ポーリナ・タラン)

SBTi
ステークホルダーエンゲージメント
シニアマネージャー



Emma Watson (エマ・ワトソン)

SBTi
標準化責任者



Owen Hewlett
(オーウェン・ヒューレット)

ゴールドスタンダード
最高技術責任者



Mark Kenber
(マーク・ケンバー)

VCMI
エグゼクティブディレクター



Edwina McKechnie
(エドウィナ・マケックニー)

Emergent
エグゼクティブバイスプレジデント、
コーポレートエンゲージメント



SCIENCE BASED TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

サイエンス・ベースド・ターゲット・イニシアチブ (SBTi) は、世界中の企業や金融機関が**温室効果ガス排出削減目標を科学的根拠に基づいて設定できるようにすること**で、**企業の積極的な気候変動対策を推進**しています。

7,700+

行動を起こして
いる企業の数

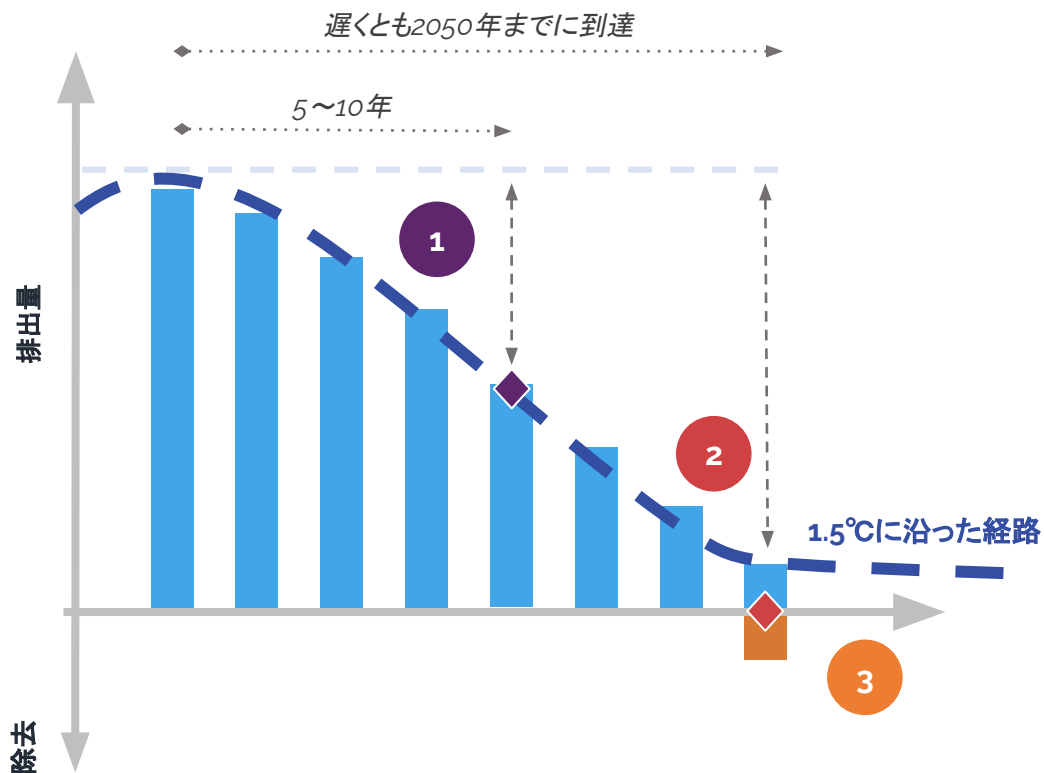
4,700+

サイエンス・ベースド・
ターゲットを掲げる企業
の数

3,000+

ネットゼロ公約
の数

COP27に先がけて企業ネットゼロ基準を2021年に発表



■ 目標バウンダリーにおけるバリューチェーン排出量の削減

■ 永久的な除去

◆ 短期目標の達成

◆ 長期目標の達成

1

科学的根拠に基づく短期目標: 15~10年の1.5°C経路に沿ったスコープ1, 2の排出削減目標と、2度を十分に下回る経路に沿ったスコープ3の排出削減目標

2

科学的根拠に基づく長期目標: 遅くとも2050年までに、1.5°Cシナリオに沿った残余レベルまで排出量を削減する目標

3

残余排出量の中和: 企業が長期的なSBTを達成したときに大気中に放出される温室効果ガスは、大気から炭素を永久的に除去・貯蔵することによって中和しなければなりません。

バリューチェーンを超えた緩和(BVCM)は、企業ネットゼロ基準の推奨事項です



「R9 – バリューチェーンを超えた気候変動の緩和:

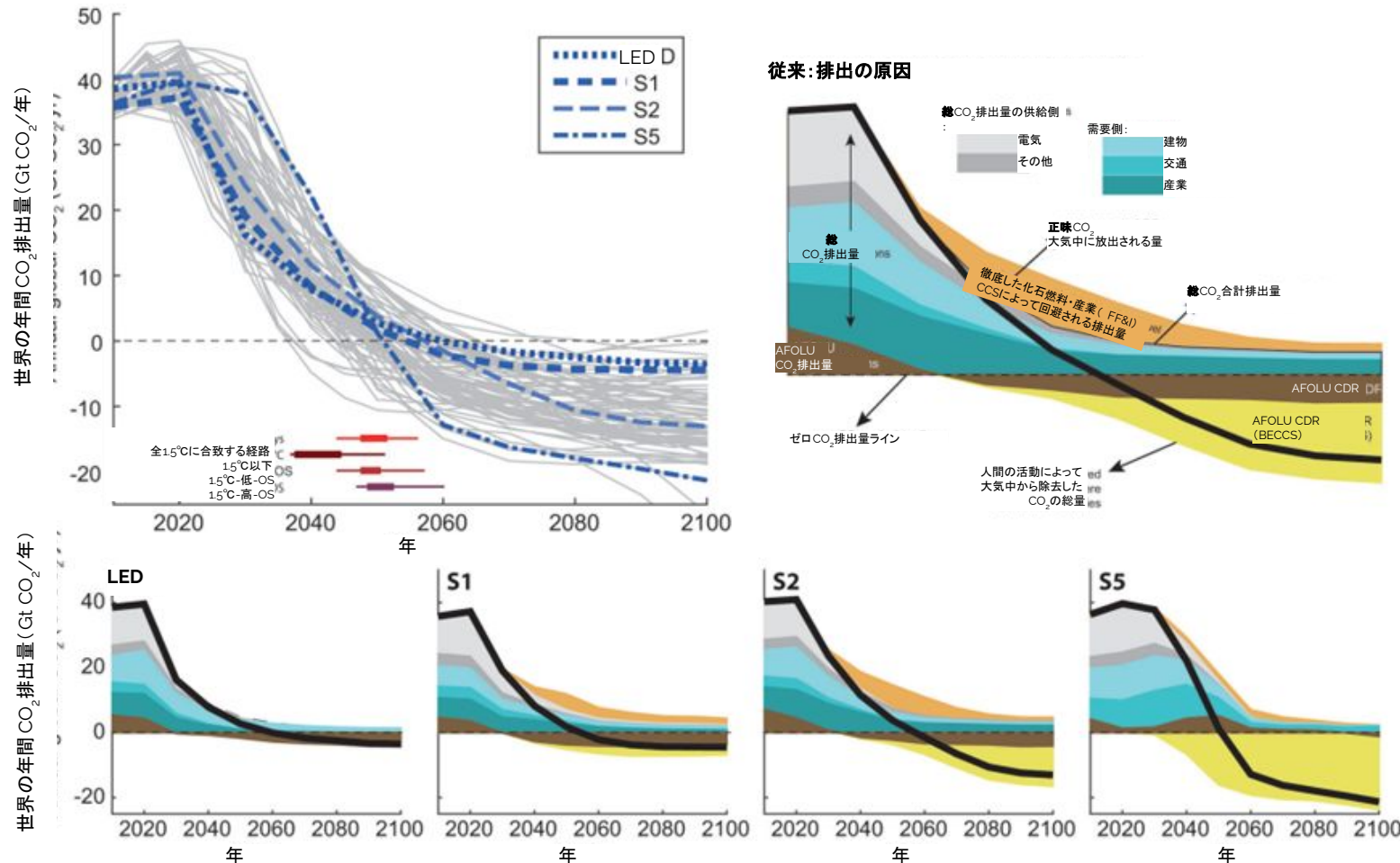
企業は、科学的根拠に基づく短期・長期的目標に加え、温室効果ガス (GHG) 排出量を緩和するために、自社のバリューチェーン外で行動を起こしたり、投資を行うべきである。

たとえば、企業は気候変動に対して一定の恩恵をもたらし、特に人と自然に共同便益をもたらすプロジェクト、プログラム、ソリューションを毎年支援することができる。

企業はこれらの措置の性質や規模について毎年報告するべきである。」

BVCMは1.5°C経路に沿った企業のバリューチェーン排出削減の取り組みを置き換えたり、先延ばしにしたりしてはなりません。

持続可能な開発に関する内容における1.5°Cに合致する緩和経路



これは、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第6次評価報告書 (AR6) の以下の記述と一致しています。

「すべての部門で即時かつ大幅な排出削減を行わない限り、地球温暖化を1.5°Cに抑えることはできないだろう」

...および...

「私たちは、2030年までに少なくとも排出量を半減させるという選択肢をあらゆる部門で有している。」

気候変動の危機がますます緊急かつ深刻になっていることを踏まえ、SBTiは、すべての企業に対してネットゼロ目標を超えて、BVCMを達成するために即時かつ一貫した行動をとることを奨励します



- BVCMがさらなる緩和と気候ファイナンスをもたらす可能性は極めて大きい。
- たとえば、2022年に承認された科学的根拠に基づく目標を持つすべての企業が、スコープ1と2の排出量の100%に相当するBVCMを実行したとすると、その年のBVCMは4億2200万tCO₂eとなっていた。
- これは、2022年に世界の自主的な炭素市場で償却される炭素クレジットの2.5倍以上であり、2022年の英国のGHG排出量よりも大きい。

2024年2月、SBTiはBVCMに関する2つの新しい報告書を発表



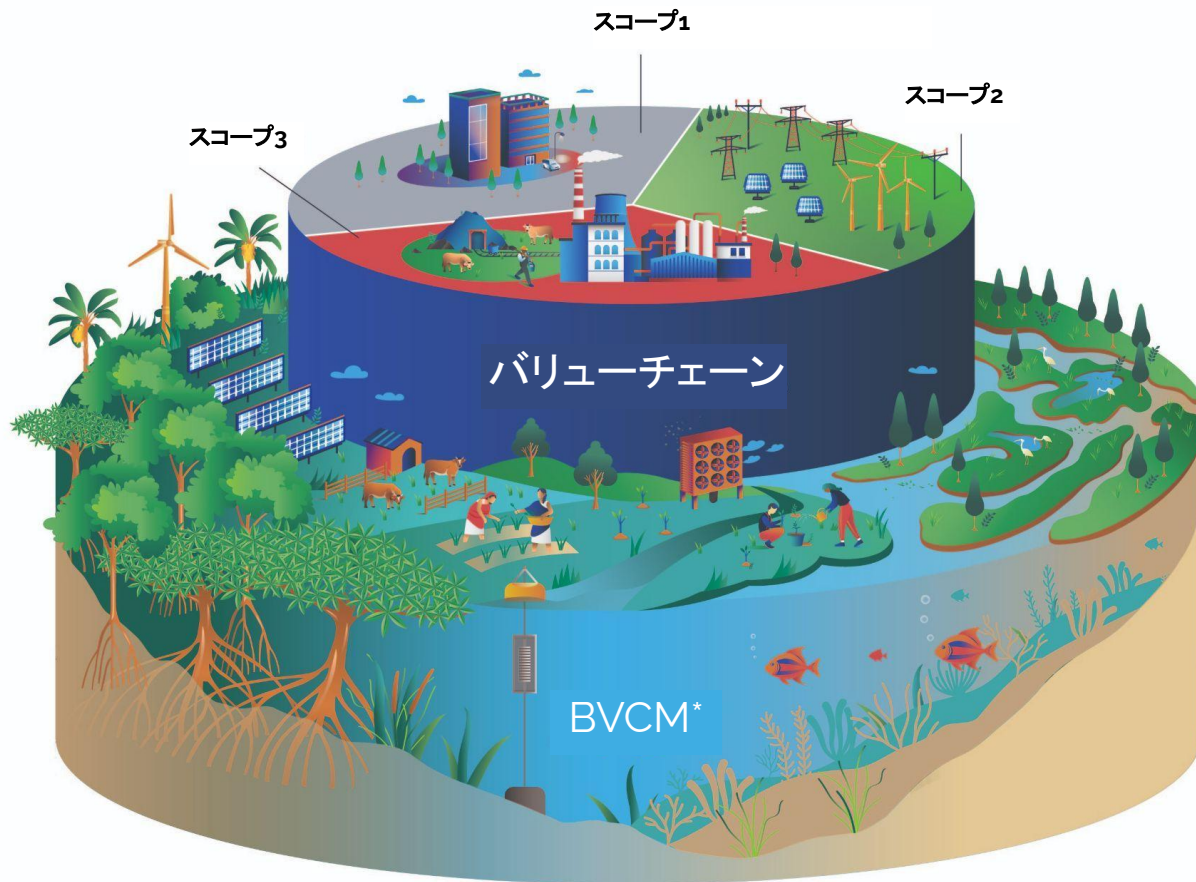
「さらなる高みを目指して」BVCM報告書は、世界的なネットゼロへの進展を加速するBVCM戦略の策定と実施において企業を支援するために作成されました。

「ハードルを上げる」BVCM報告書は、BVCMの障壁とインセンティブに関するSBTi調査に基づいた報告書で、企業のBVCM導入と実施を加速させるために、さまざまな関係者への推奨事項を提案しています。



さらなる高みを目指して：BVCMの 策定と実施に関するSBTi報告書

BVCMの定義

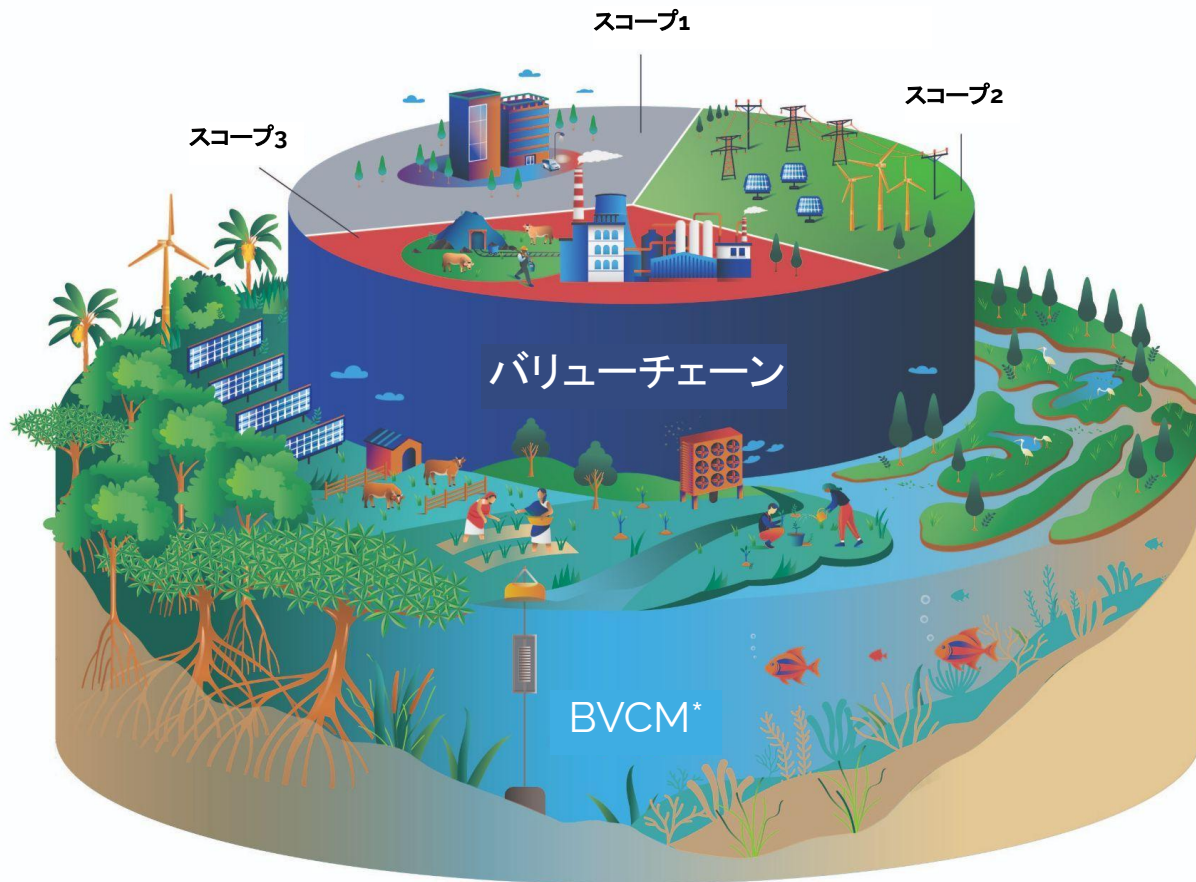


*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

定義

企業のバリューチェーンの外側に位置する緩和行動や投資。GHG排出を回避または削減する活動や、大気からGHGを除去・貯蔵する活動など。

BVCMの目的

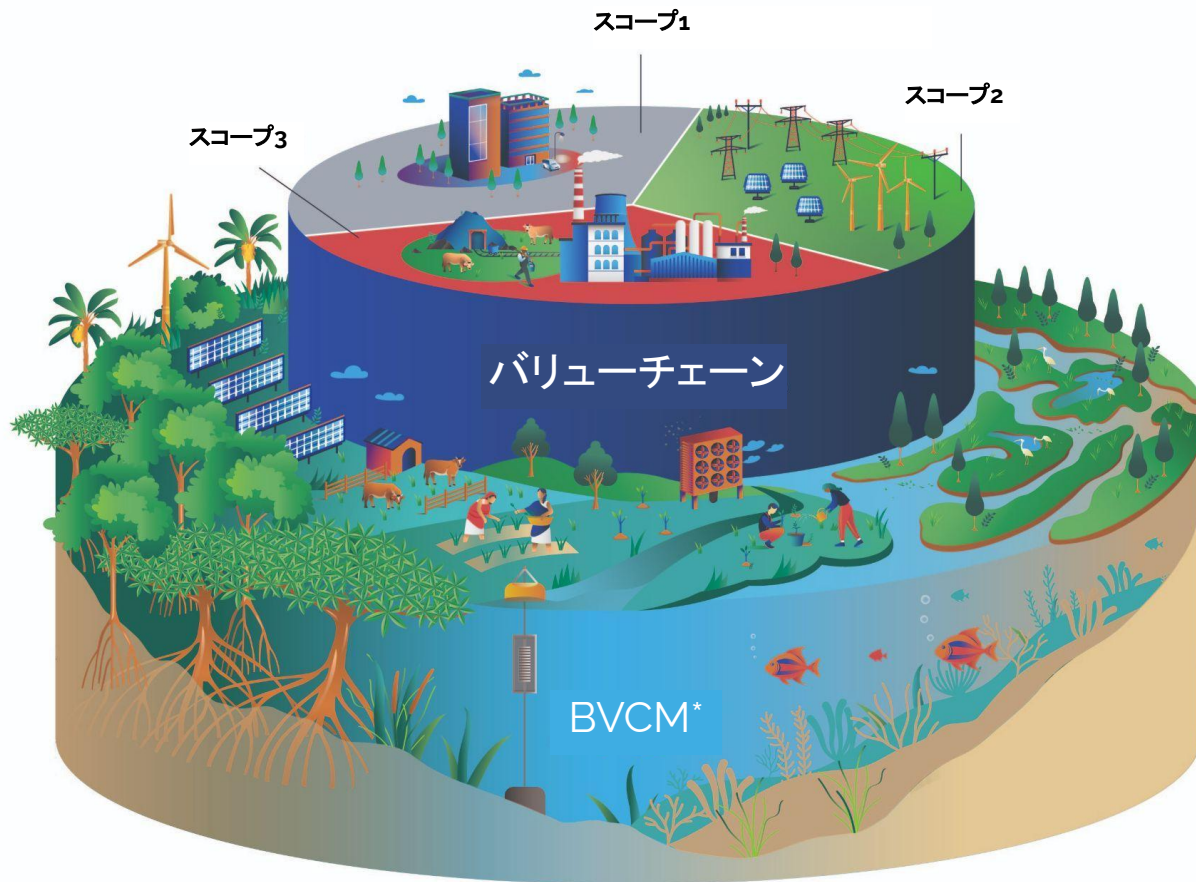


*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

目的

- BVCMは、他の経済的・社会的主体によるGHG排出量の削減・除去を支援することで、企業が世界全体でのネットゼロへの移行を加速できるようにします。
- BVCMによって、企業はSBTの達成に向けて前進する過程で、大気中に排出され続ける未対策の排出に対して責任を持てるようになります。

企業はBVCMを達成するために即時かつ一貫した行動をとるべきです

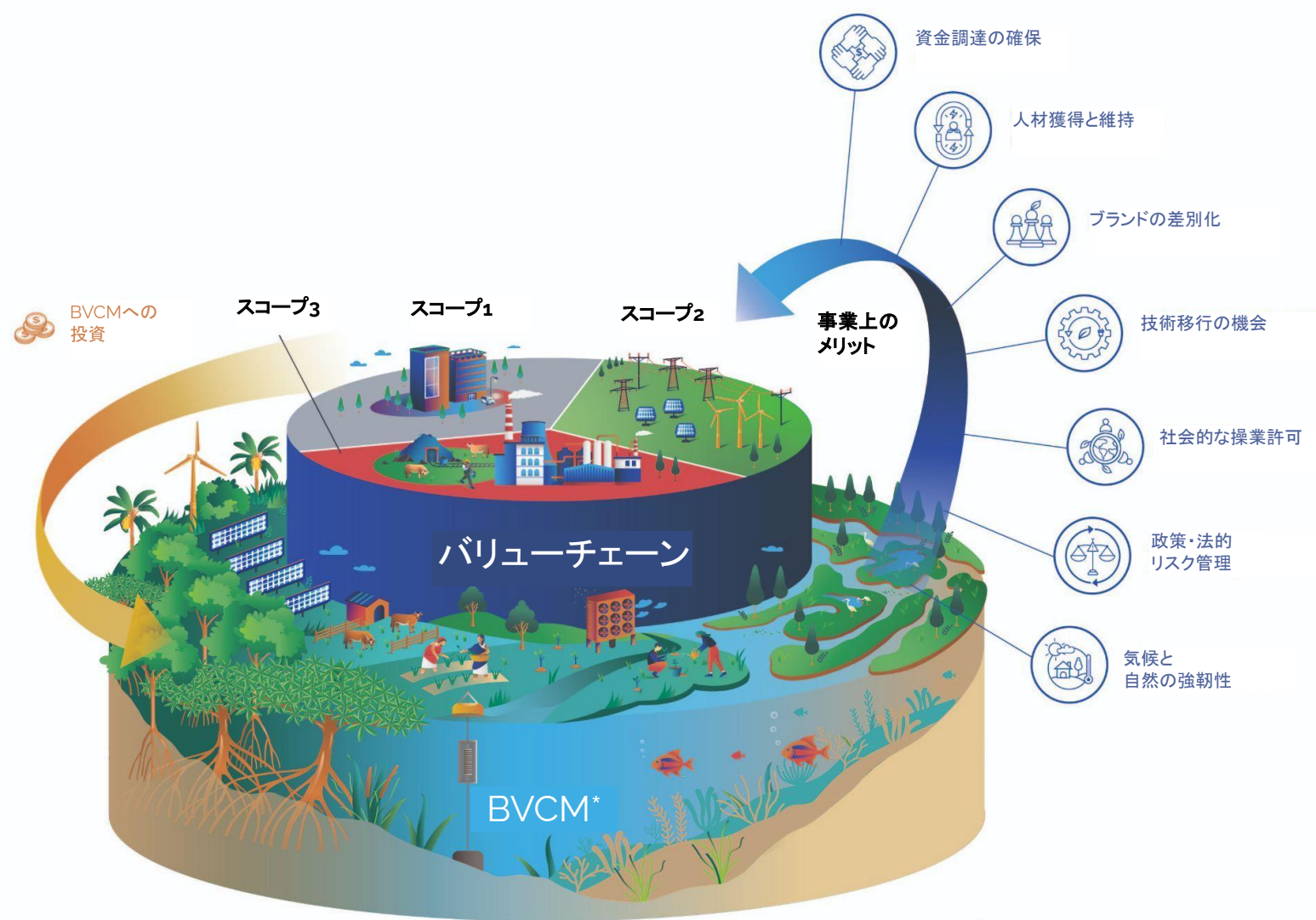


*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

タイミング

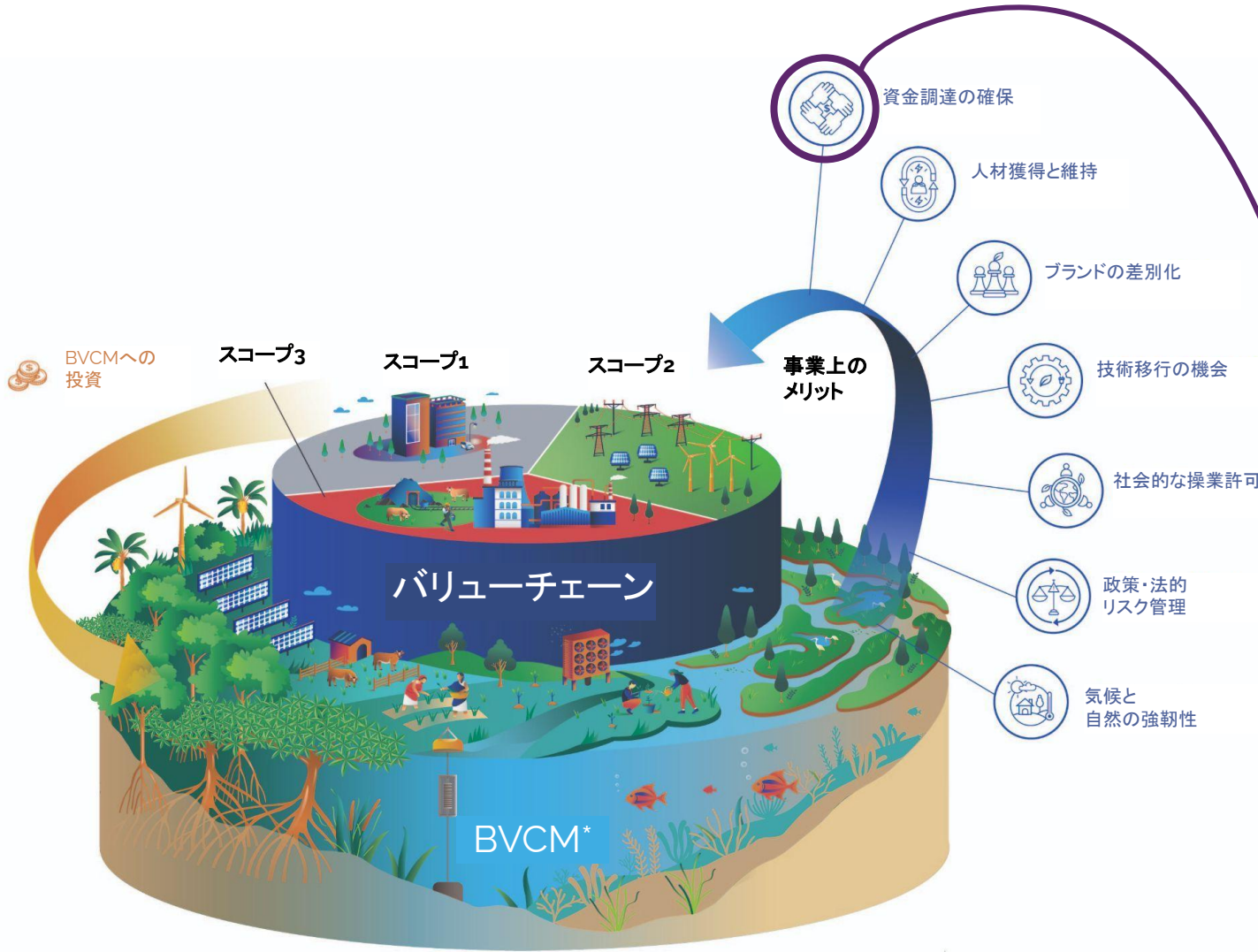
ネットゼロ目標を設定した企業は、ネットゼロへの移行に伴い、毎年BVCMを実現するために即時かつ一貫した行動をとることが奨励されます。

BVCMのビジネスケース



*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

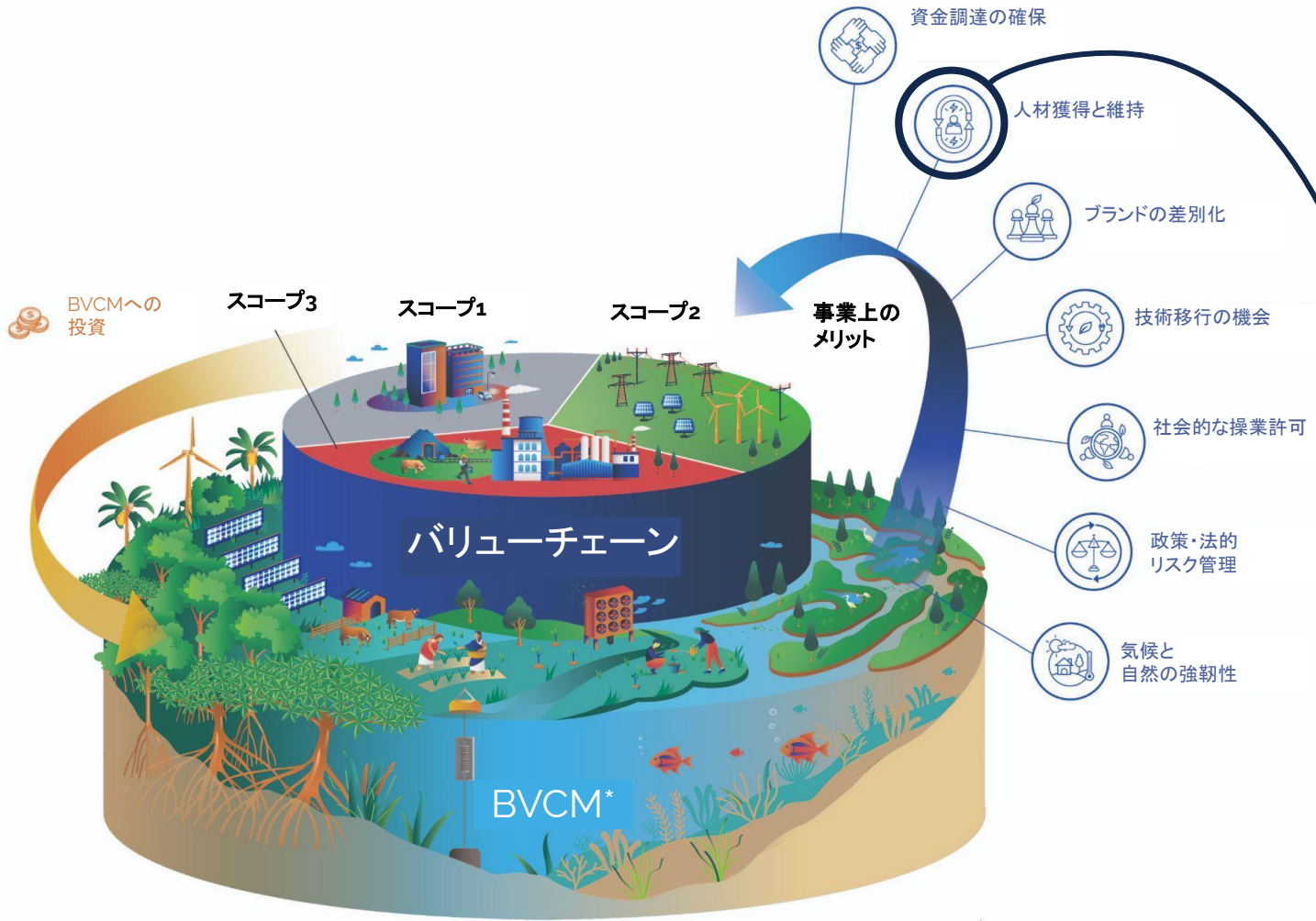
BVCMのビジネスケース: 資金調達の確保



あるファッション企業は、アマゾンの熱帯雨林保護に資金提供することで、パーパス主導のブランドであることをアピールし、パーパス意識の高い事業に注目する投資家を惹きつけています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

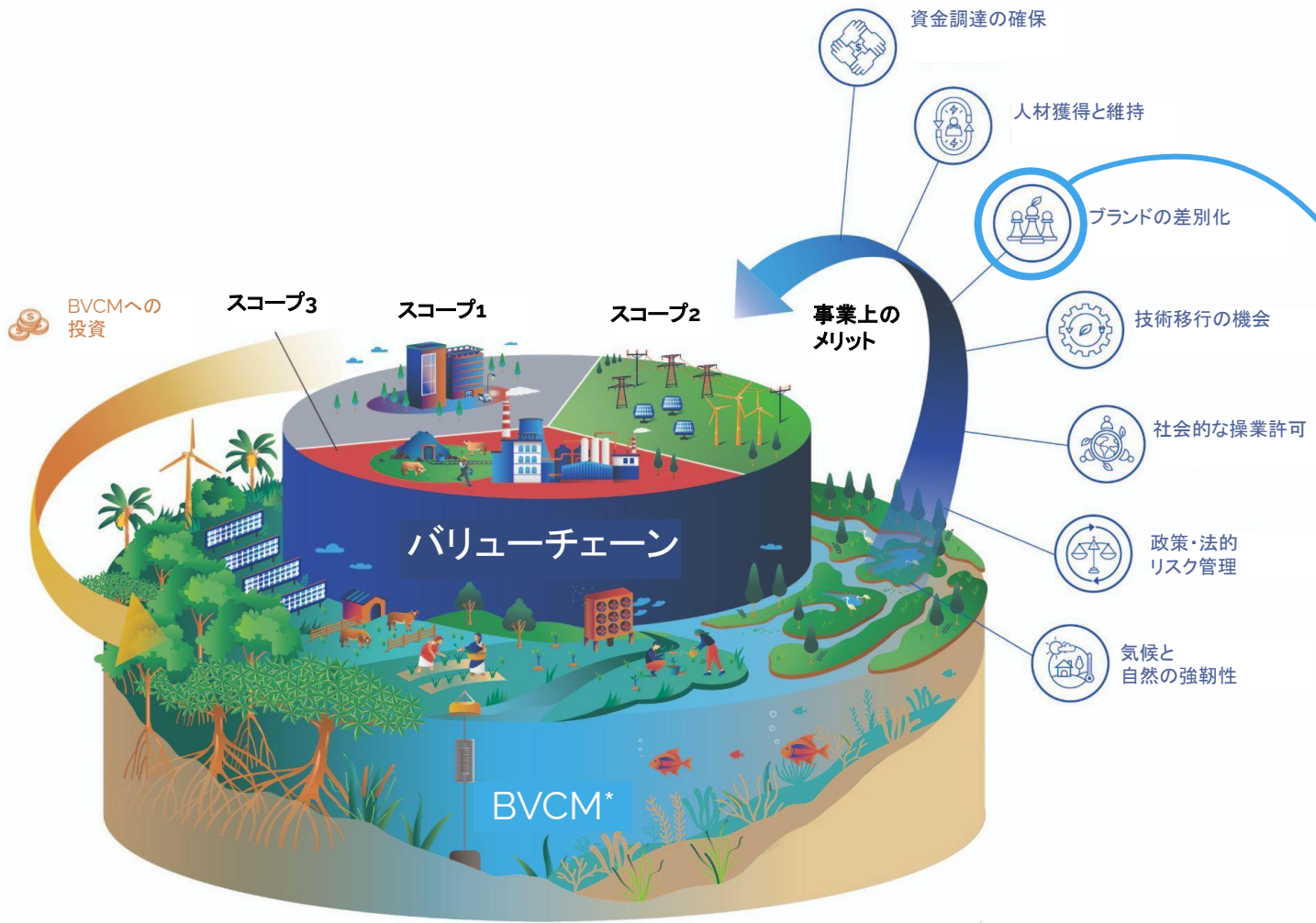
BVCMのビジネスケース: 人材獲得と維持



ある専門サービス企業は、BVCMを通じて競合他社との差別化を図り、人材の獲得と維持に努めています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

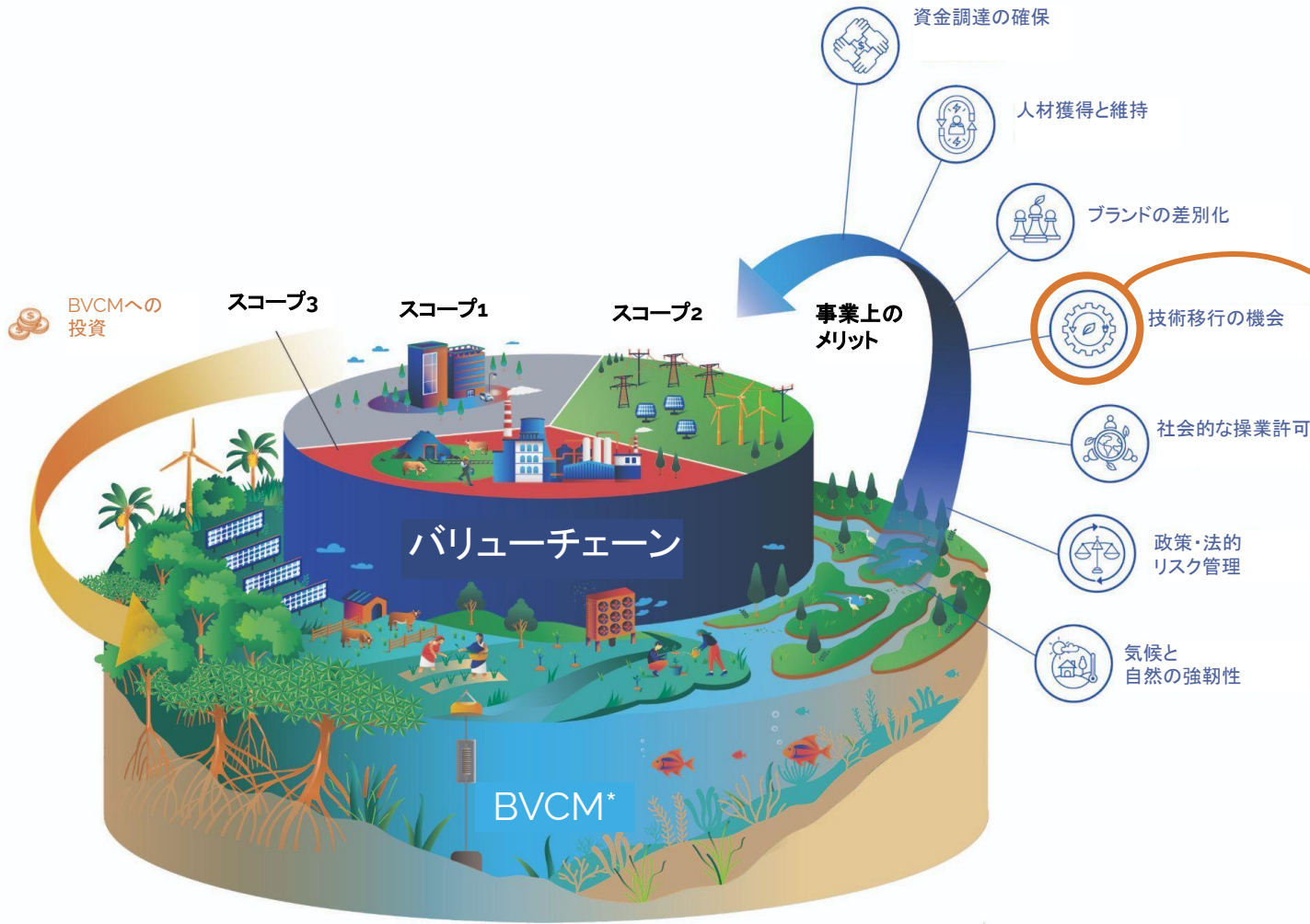
BVCMのビジネスケース:ブランドの差別化



ある電気通信会社は、太陽光発電のミニグリッドに資金提供し、他社との差別化を図るとともに、気候リーダーシップによる価格プレミアムの機会を狙っています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

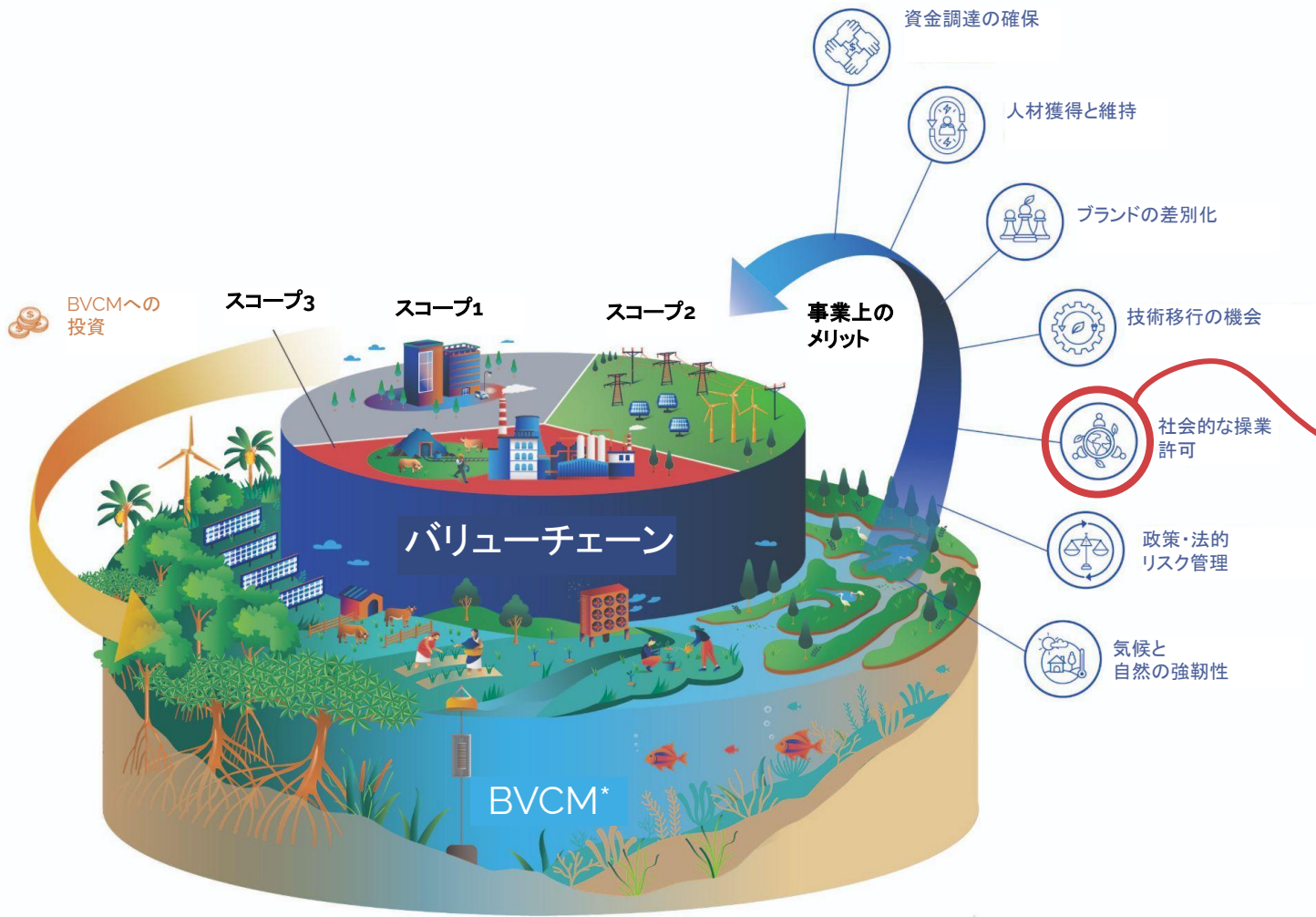
BVCMのビジネスケース: 技術移行の機会



ある航空会社は、直接炭素回収・貯留による炭素クレジットを購入することでBVCMに資金提供し、これによってこの技術の利用可能性を高め、コストを下げています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

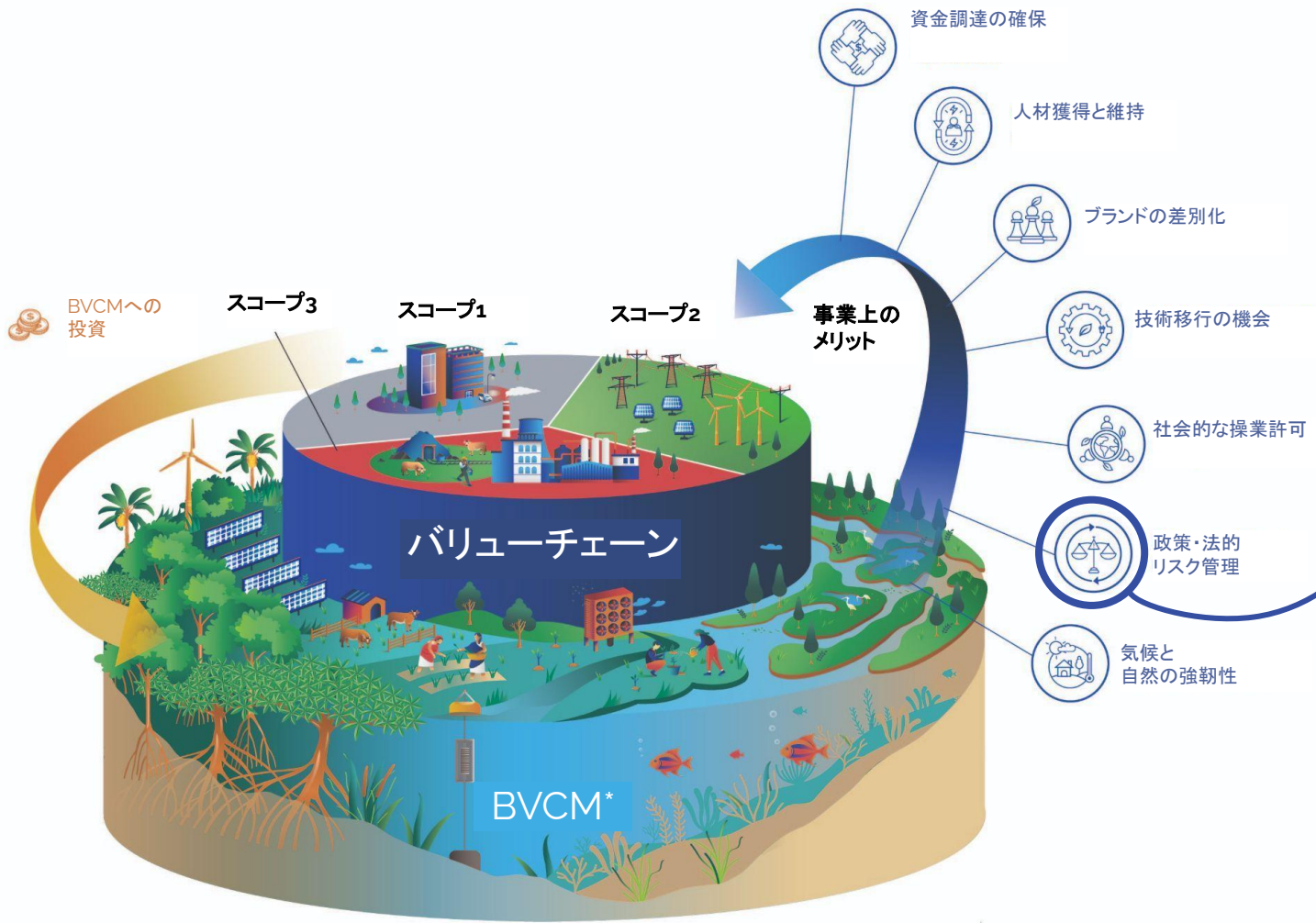
BVCMのビジネスケース:社会的な操業許可



ある収益性の高いテクノロジー企業は、その恵まれた経済的地位が具体的な社会的責任と釣り合っていることを市民社会や規制当局に示すために、BVCM活動のポートフォリオに資金を提供しています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

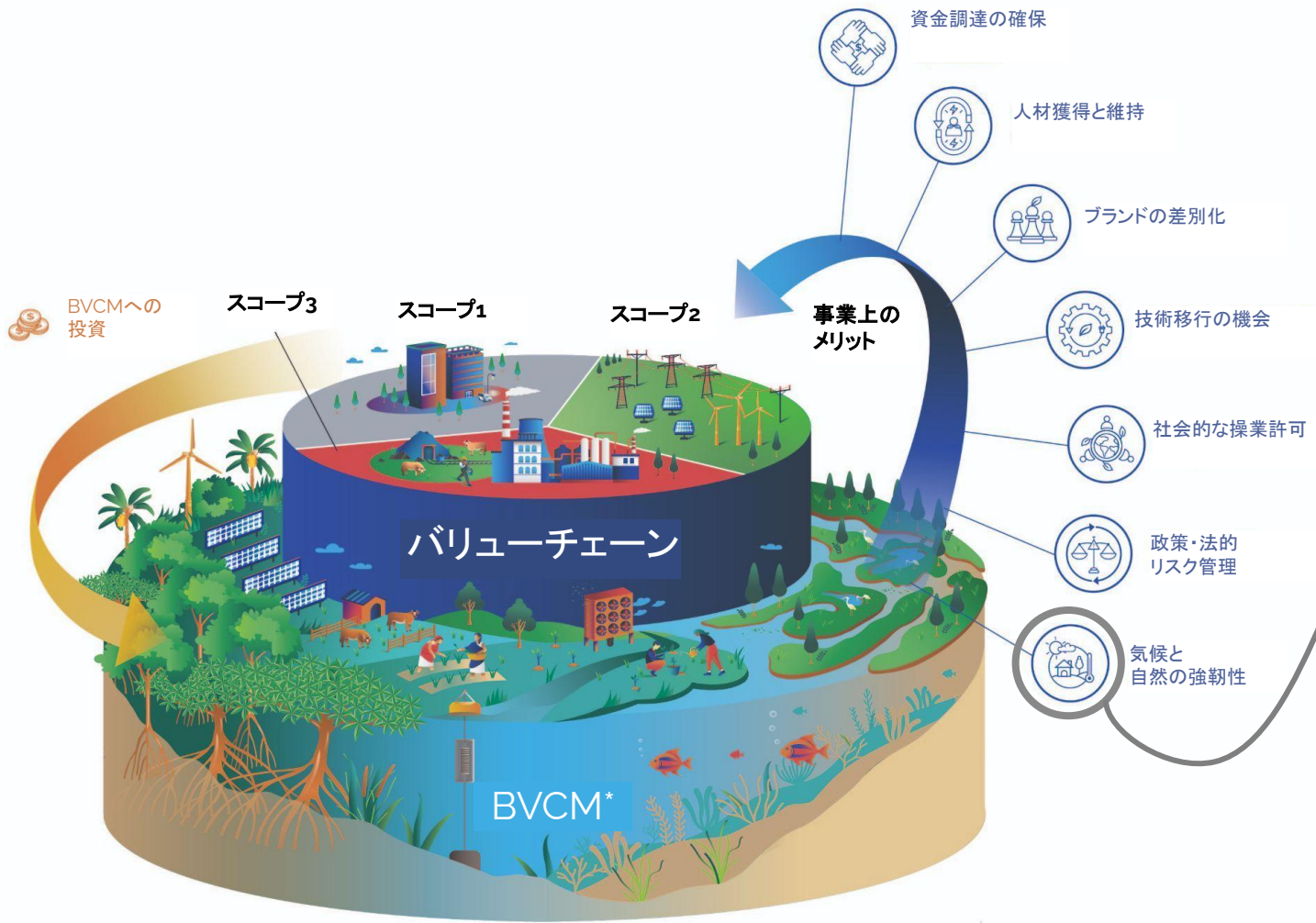
BVCMのビジネスケース: 政策・法的リスク管理



あるメディア企業は、サハラ以南のアフリカで自然に基づく解決策に資金提供するブレンデッドファイナンスの仕組みに投資しています。この仕組みは、開発金融を活用して、発展途上国や新興国への民間セクター投資を誘致し、リスクを軽減しています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

BVCMのビジネスケース: 気候と自然の強靱性

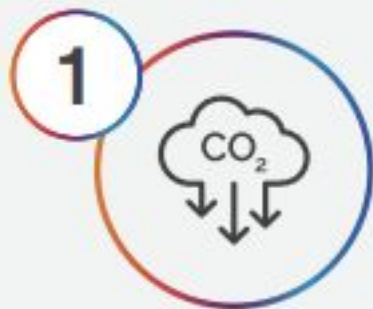


あるメーカー企業は、生産施設に隣接する沿岸生態系の回復に資金提供し、生産施設に被害を与える高潮に関連したコスト増加や収益損失のリスクを緩和しています。

*Beyond Value Chain Mitigation
(バリューチェーンを超えた緩和)

BVCM戦略の策定と実施に活用できる目標および原則

BVCMの目標



2020年代半ばに地球規模での炭素排出がピークに達し、**2030年までに地球規模での炭素排出量を半減させるためのさらなる短期的な緩和成果**を提供する。



初期段階の気候ソリューションや、それらを可能とするような活動の規模拡大に向けて**追加資金**を投入し、**今世紀半ばまでに世界中でネットゼロを達成するために必要な構造的な変革**を切り開く。

BVCMの原則



規模
緩和の成果を最大限に引き出す



資金ニーズ
資金不足の緩和活動に重点を置く



共同便益
SDGsに資する



気候正義
格差への対処

「原則に沿った」緩和の機会

規模: 気候変動の緩和を最大化

資金ニーズ: 資金不足の緩和活動に重点を置く

共同便益: SDGsに資する

気候正義: 格差への対処

原則に沿った緩和の機会には、以下のようなものがあります。

排出削減コストが低い

生態系と気候の転換点(ティッピング・ポイント)を防止する

高炭素技術・インフラの固定化(ロックイン)を回避する

プラスの影響を連鎖的に生み出す可能性がある

法域内やランドスケープレベルで資金を提供する

パリ協定に基づく国別の貢献(NDC)を国が達成する(そして潜在的に強化する)ために、民間セクターの資金を必要としている

費用対効果(ROI)が限定的、投資回収期間が長い、または投資リスクが高いため、資金が不足し、優遇金融または無償金融を必要としている

適応、強靭性、生活、水の安全保障、生物多様性などの共同便益を提供する

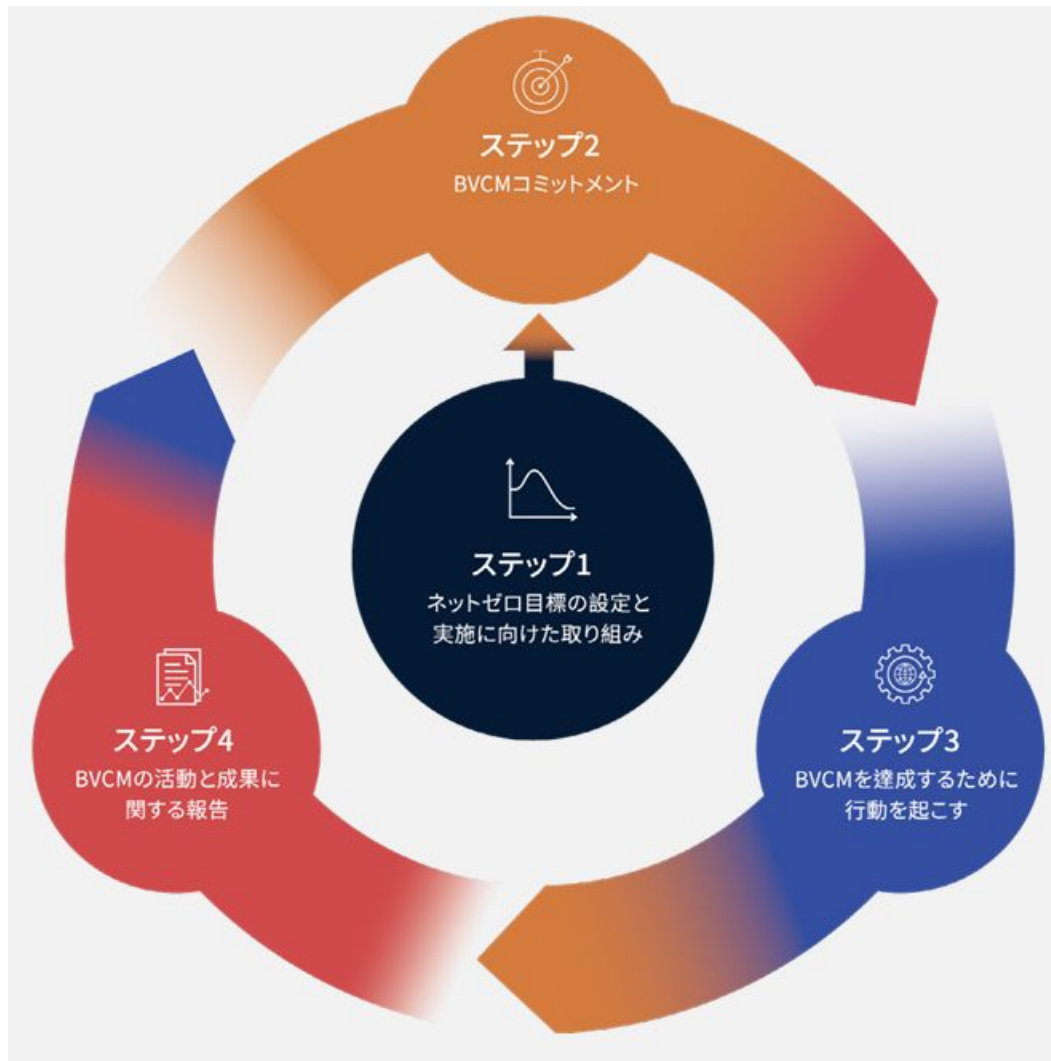
所得の低い、より脆弱な国々に緩和策を提供する

気候変動によって最も影響を受ける恵まれない人々や社会から疎外された人々を支援する

先住民族と現地コミュニティが気候変動緩和と適応を実現するためのリーダーシップと主体性を発揮する取り組みを支援し、確保する

公正な移行を支援する

インパクトが大きくインテグリティ(誠実さ)の高いBVCM戦略を策定・実施するための4段階プロセス



ステップ1: ネットゼロ目標の設定と実施に向けた取り組み

- 1.1 詳細なGHGインベントリを作成・開示する
- 1.2 SBTiネットゼロ目標を設定、提出、検証、開示する
- 1.3 ネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、それに向けて取り組む

ステップ2: BVCMコミットメント

- 2.1 事業性評価(ビジネスケース)とBVCMにおける戦略目標を決定する
- 2.2 BVCMコミットメントの期間について定義する
- 2.3 BVCMコミットメントの規模を定義する

ステップ3: BVCMを達成するために行動を起こす

- 3.1 BVCM活動と投資に関する品質基準とガードレールについて定義する
- 3.2 BVCM活動のポートフォリオに資源と資金を投入する

ステップ4: BVCMの活動と成果に関する報告

- 4.1 BVCMのMRV枠組みを確立する
- 4.2 BVCMの活動、投資、成果について毎年報告する
- 4.3 透明性のある正確なBVCM主張を行う



ステップ1

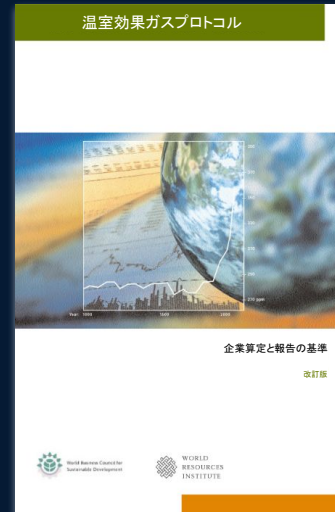
ネットゼロ目標の設定と
実施に向けた取り組み

1.1: 詳細なGHG排出インベントリを作成・開示する

ステップ1.1 推奨事項:

- 全社的なスコープ1と2のGHG排出量の少なくとも95%を対象とする包括的な排出インベントリを作成し、そこに完全なスコープ3インベントリを含める。
- GHGインベントリを毎年更新する。
- 独立した第三者機関によるGHGインベントリの検証を毎年受ける。
- GHGインベントリと検証報告書を、会社の財務諸表、ウェブサイト、CDP質問票を通じて毎年公表する。

関連資料の例



出典:

<https://ghgprotocol.org/corporate-standard>;

<https://ghgprotocol.org/corporate-value-chain-scope-3-standard>;

<https://ghgprotocol.org/scope-2-guidance>



ステップ1
ネットゼロ目標の設定と
実施に向けた取り組み

1.2: 科学的根拠に基づくネットゼロ目標の設定、提出、検証、開示

ステップ1.2 推奨事項:

- 科学的根拠に基づくネットゼロ目標を設定する意思を表明するコミットメントレターを提出する。
- SBTi基準に沿った、科学的根拠に基づく短期・長期の目標を策定する。
- 短期目標は、スコープ1とスコープ2排出量の少なくとも95%、スコープ3が重要な場合はスコープ3排出量の少なくとも67%をカバーしなければならない。
- 長期目標は、スコープ1とスコープ2排出量の少なくとも95%、スコープ3排出量の少なくとも90%をカバーしなければならない。
- 目標をSBTiに提出し、正式な検証を受け、承認後6か月以内に目標を公表する。
- 全社的な温室効果ガス排出量と目標の進捗状況を毎年開示する。

関連資料の例:



出典: <https://sciencebasedtargets.org/resources/>



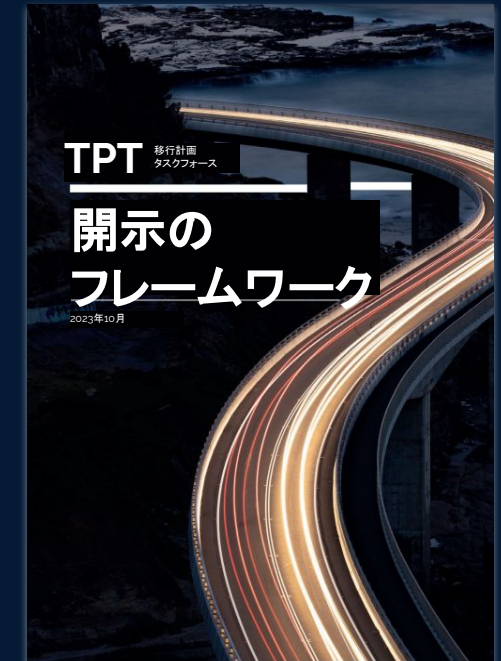
ステップ1
ネットゼロ目標の設定と
実施に向けた取り組み

1.3: ネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、それに向けて取り組む

ステップ1.3 推奨事項:

- 移行計画タスクフォース(TPT)の推奨事項に従ってネットゼロに沿った気候移行計画を策定、開示し、進捗状況の報告も含めて毎年更新する。
- 企業ネットゼロ基準 バージョン1.2: 付属文書D 7.7は、移行計画の開示に関する追加ガイダンスを提供する。

関連資料の例:



出典: <https://www.cdp.net/en/guidance/guidance-for-companies/climate-transition-plans>;
<https://transitiontaskforce.net/>



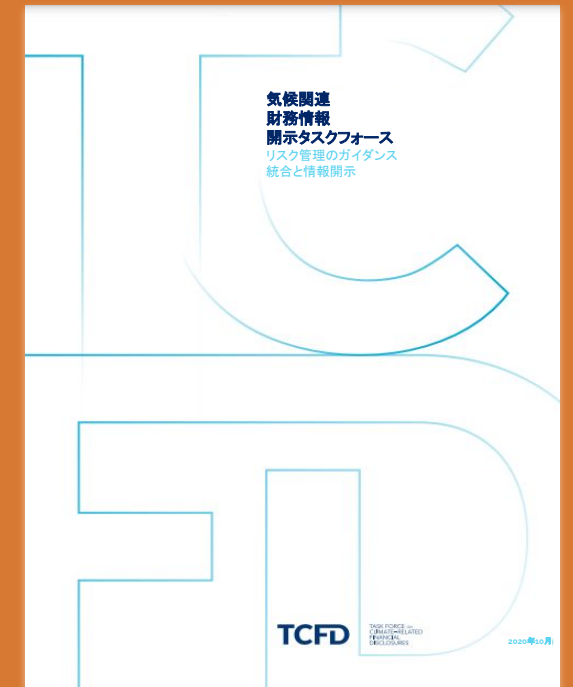
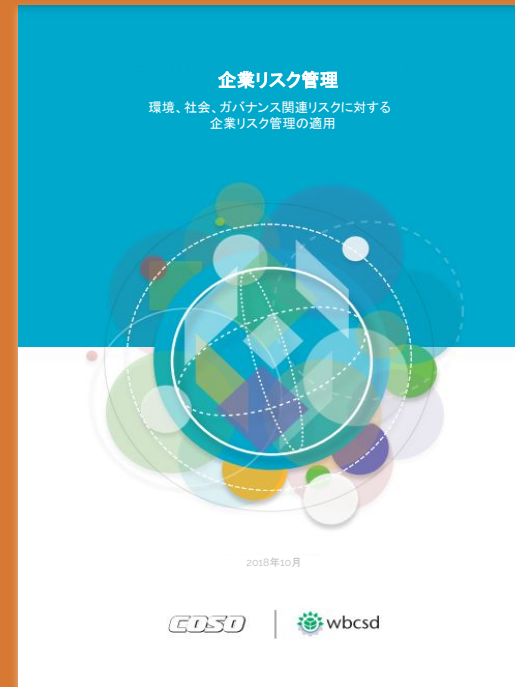
ステップ2
BVCMコミットメント

2.1: 事業性評価(ビジネスケース)とBVCMにおける戦略目標を決定する

ステップ2.1 推奨事項:

- BVCMがどのように機会を引き出し、将来的なリスクを最小化し、企業の長期的価値を守り、高めることができるのか、その方法について検討する。
- BVCMにおける戦略目標について定義する。
- バリューチェーン内外の気候変動対策に関する全体的かつ戦略的なアプローチを促進するために、BVCMの戦略目標を企業の気候移行計画と関連する開示に統合する。

関連資料の例:



出典:

<https://www.wbcscd.org/Programs/Redefining-Value/Making-stakeholder-capitalism-actionable/Enterprise-Risk-Management/Resources/Applying-Enterprise-Risk-Management-to-Environmental-Social-and-Governance-related-Risks>; <https://www.fsb-tcf.org/>



ステップ2
BVCMコミットメント

2.2: BVCMコミットメントの期間について定義する

ステップ2.2 推奨事項:

- 将来を見据えたコミットメント期間を決定する。対象とする期間は5年以上が望ましい。
- BVCMコミットメント期間について公表する。
- BVCMコミットメントを定期的に見直す。

関連資料の例:



出典: <https://sciencebasedtargets.org/resources/>



ステップ2
BVCMコミットメント

2.3: BVCMコミットメントの規模を定義する

BVCMコミットメントの規模を決定する 3つの方法

トン・フォー・トン方式

企業は未対策のGHG排出がおよぼす気候変動への影響に比例したBVCMを提供する。

例: 排出量 $1\text{tCO}_2\text{e}$ につき $1\text{tCO}_2\text{e}$ のBVCMを提供する。



マネー・フォー・トン方式

企業は未対策のGHG排出量に炭素価格を適用することで、BVCMに資金を提供する。

例: 排出量 $1\text{tCO}_2\text{e}$ につき100米ドルをBVCMに投入する。



マネー・フォー・マネー方式

企業は、定められた利益または収益の分配に基づいて、BVCMに向けた資金を投入する。

例: 企業は毎年利益の1%をBVCMに割り当てる。





ステップ2
BVCMコミットメント

2.3: BVCMコミットメントの規模を定義する

SBTiが提案するベストプラクティスのアプローチ

科学的根拠に基
づく炭素価格



スコープ1、2、3
の排出量



資金予算



SBTiは、以下に基づき、**科学的根拠に基づく炭素価格**をGHG排出の経済価値と見なしている。

- GHG排出による外部コスト(市民が負担する排出コスト)の確かな科学的評価。
- 1.5°C経路の達成に関連する予想コストに関する確かな科学的評価。
- 特定のGHG排出量を完全かつ恒久的に削減するために必要な、真の完全なコスト。



ステップ2
BVCMコミットメント

2.3: BVCMコミットメントの規模を定義する

SBTiが提案するベストプラクティスのアプローチ

スコープ1、2、3
の排出量

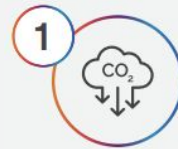


科学的根拠に基
づく炭素価格



資金予算

- 予算の一部を使い、スコープ1~3の未対策排出量の50%に相当する短期的なBVCM成果を達成する(トン・フォー・トン 50%)。
- 残りの予算は、以下の中から選択した組み合わせに充てる。
 - 短期BVCMの追加的成果。
 - 初期の気候変動ソリューションとそれを可能にする活動の拡大。
 - 適応および/または損失と損害。



BVCM目標1: 2020年代半ばに地球規模での炭素排出がピークを達し、2030年までに地球規模での炭素排出量を半減させるためのさらなる短期的な緩和成果を提供する。



BVCM目標2: 初期段階の気候ソリューションや、それらを可能とするような活動の規模拡大に向けて追加資金を投入し、今世紀半ばまでに世界中でネットゼロを達成するために必要な構造的な変革を切り開く。



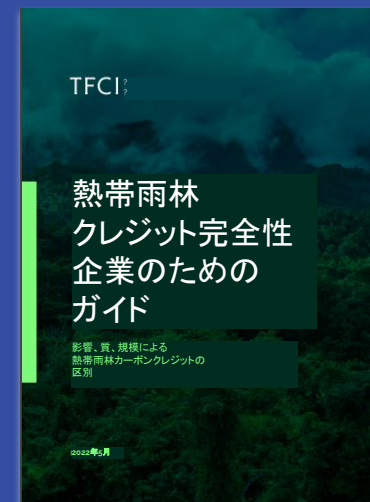
ステップ3
BVCMを促進するため
に行動を起こす

3.1: BVCM活動と投資に関する品質基準とガードレールについて定義する

ステップ3.1 推奨事項:

- 追加性、持続性を確保し、リーケージや二重計上を避けるため(該当する場合)、最低限の品質基準を遵守する。
- BVCMの活動が社会や環境に悪影響を及ぼさないよう、セーフガードに関する原則を定め、それらを遵守し、開示する。

関連資料の例:



出典: <https://carboncreditquality.org/>; <https://tfciguide.org/>; <https://icvcm.org/>; <https://verra.org/programs/sd-verified-impact-standard/>; <https://www.goldstandard.org/gold-standard-for-the-global-goals>



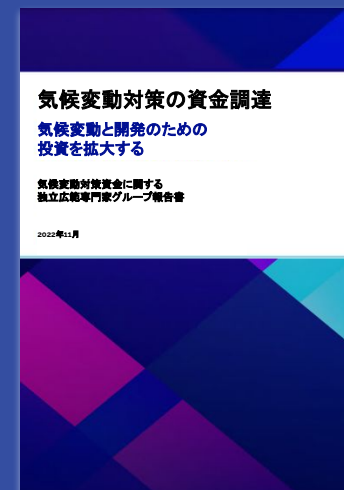
ステップ3
BVCMを促進するため
に行動を起こす

3.2: BVCM活動のポートフォリオに資源と資金を投入する

ステップ3.2 推奨事項:

- SBTiが定義したBVCMの目標と原則に従って、最も必要とされるところに資金と資源を投入する。
- 企業のBVCM活動と投資がどのようにSBTiのBVCM目標と原則に整合しているかについて公表する。

関連資料の例:



出典: <https://www.ipcc.ch/assessment-report/ar6/>;
<https://www.lse.ac.uk/granthaminstitute/publication/finance-for-climate-action-scaling-up-investment-for-climate-and-development/>;
<https://wid.world/wp-content/uploads/2023/01/CBV2023-ClimateInequalityReport-2.pdf>



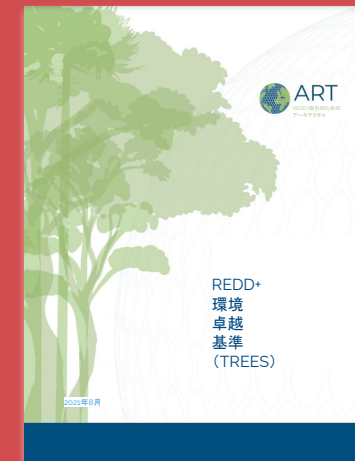
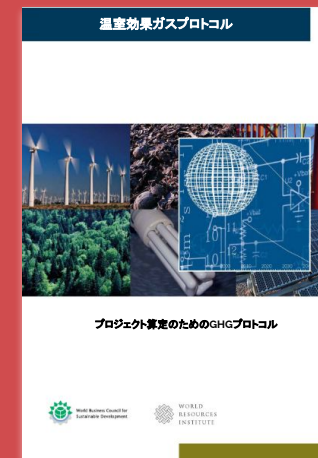
ステップ4
BVCMの活動と
成果に関する報告

4.1: BVCMのモニタリング・報告・保証(MRA)のフレームワークを確立する

ステップ4.1 推奨事項:

- BVCM MRVのフレームワークを作成し、一定期間にわたるBVCMの資金提供の結果として緩和の成果を測定、報告および検証します。
- BVCMの活動や投資について評価し、保証するために、既存の基準や報告の枠組みを参照します。
- BVCMによる緩和の成果は、排出削減または除去の介入の正確性と完全性について評価する独立した第三者による検証を受けます。
- 既存の基準がない場合は、国際的に認められた保証基準に従って、承認された監査人が独自に保証できるBVCM特有の指標と測定基準を開発し、開示するものとします。
- 年次の検証証明書または報告書を公表します。

関連資料の例:



出典: <https://ghgprotocol.org/project-protocol>; <https://www.artredd.org/trees/>;
<https://vcminegrity.org/publication/vcmi-monitoring-reporting-and-assurance-mra-framework/>;



ステップ4
BVCMの活動と
成果に関する報告

4.2 BVCMの活動、投資、成果について毎年報告する

ステップ4.2 推奨事項:

- BVCMに向けて投資された資金、緩和のための介入および成果、提供された共同便益について年次ベース(企業のGHGインベントリの報告期間に合わせて)で報告します。排出削減・除去とは、別々に報告します。
- 年次CDP質問書、年次財務諸表、年次持続可能性報告書またはウェブサイトを通じて、BVCMの活動と投資について報告します。
- 該当する場合、企業は自社の未対策の排出量に関する温室効果ガスの外部性について報告することが推奨されます。

関連資料の例:

CDP質問書2023年



気候変動

2023年度要請に対し
開示する企業向け気候変動質問書。





ステップ4
BVCMの活動と
成果に関する報告

4.3: 透明性のある正確なBVCM主張を行う

ステップ4.3 推奨事項:

- 主張は、該当する法域内で効力を有する環境主張に関する法律または規制に準拠していることを確認する。
- 事業目的および規制の内容に照らして、BVCM主張の種類（補償 (compensation) または貢献 (contribution) 主張）を選択する。
- (BVCMコミットメントのような) ヘッドラインの主張を詳細の内容や、文脈、そして主張の限界などの細やかなニュアンスを含めて説明する。
- BVCMの主張が、インテグリティが高く意欲的な環境主張の一般的要件を満たしていることを確認する。
- 可能な限り、企業はBVCMの主張が外部の監査または認証を受けていることを確保してください。

関連資料の例:



出典:

<https://www.goldstandard.org/publications/fairly-contributing-to-global-net-zero-initial-framework>;
<https://www.isealalliance.org/get-involved/resources/jurisdictional-monitoring-and-claims-resources>;
<https://vcmintegrity.org/vcmi-claims-code-of-practice/>



ステップ4
BVCMの活動と
成果に関する報告

4.3: 透明性のある正確なBVCM主張を行う

補償(COMPENSATORY)主張

気候変動補償の主張とは、企業のバリューチェーンを超えた GHG排出の回避、削減、除去が、企業の事業やバリューチェーン内での排出を相殺することを伝えるものです。補償主張の一例は、カーボンニュートラルの主張です。

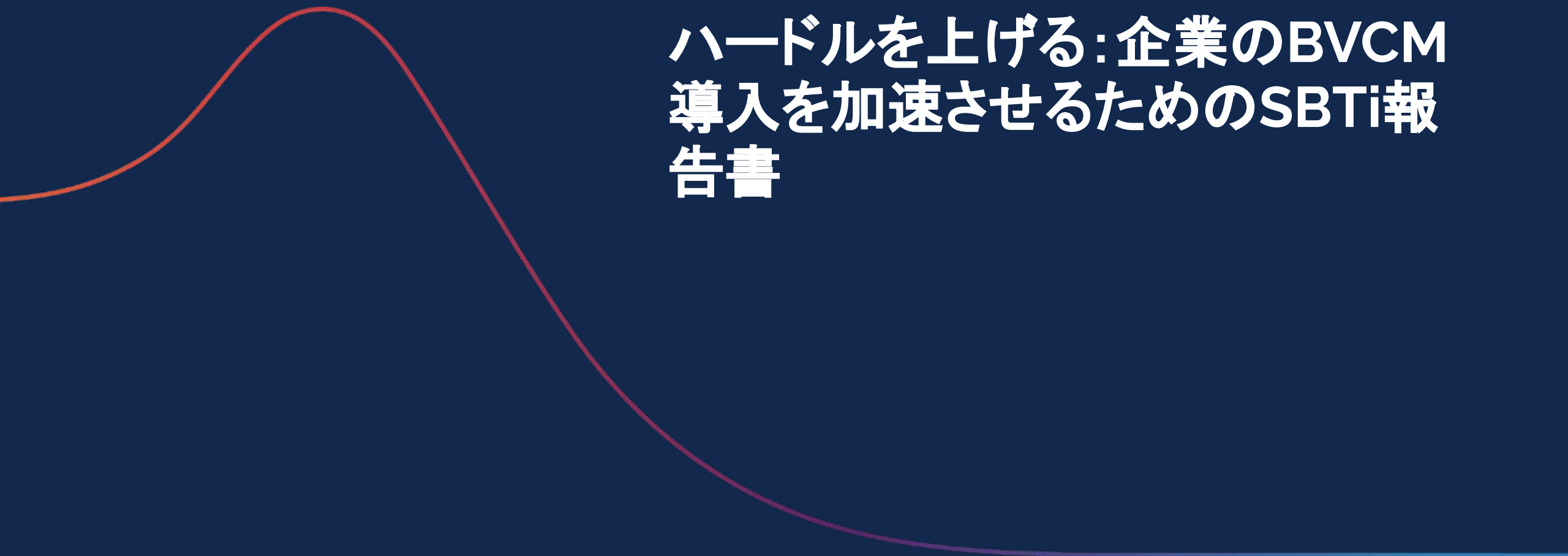
補償の主張は、さまざまな法域で公的な監視や規制の対象となりつつあります。

貢献(CONTRIBUTORY)主張

気候変動の貢献主張は、企業のバリューチェーンを超えて(期待されるパフォーマンスの成果に関連する)気候変動の緩和につながると期待される行動(集団的な行動を含む)を、組織が支援または資金提供したことを伝えるものです。

補償主張とは異なり、貢献主張は、BVCMの成果が企業の残りのバリューチェーン排出量を相殺することを意味するのではなく、世界的な気候変動緩和の取り組み、あるいは国の取り組みへの貢献として伝えられます。

SBTiは、他の主体がこの分野で活動していることから、BVCMの主張を検証する予定はありません。



ハードルを上げる：企業のBVCM 導入を加速させるためのSBTi報 告書

SBTiの『ハードルを上げる』報告書には、企業のBVCM導入を加速させるための「問題提起」と「ビジョン」が記されています

問題提起

BVCMを一貫して、気候変動の危機の大きさに見合った規模で資金提供し、実施している企業の数是不十分である。

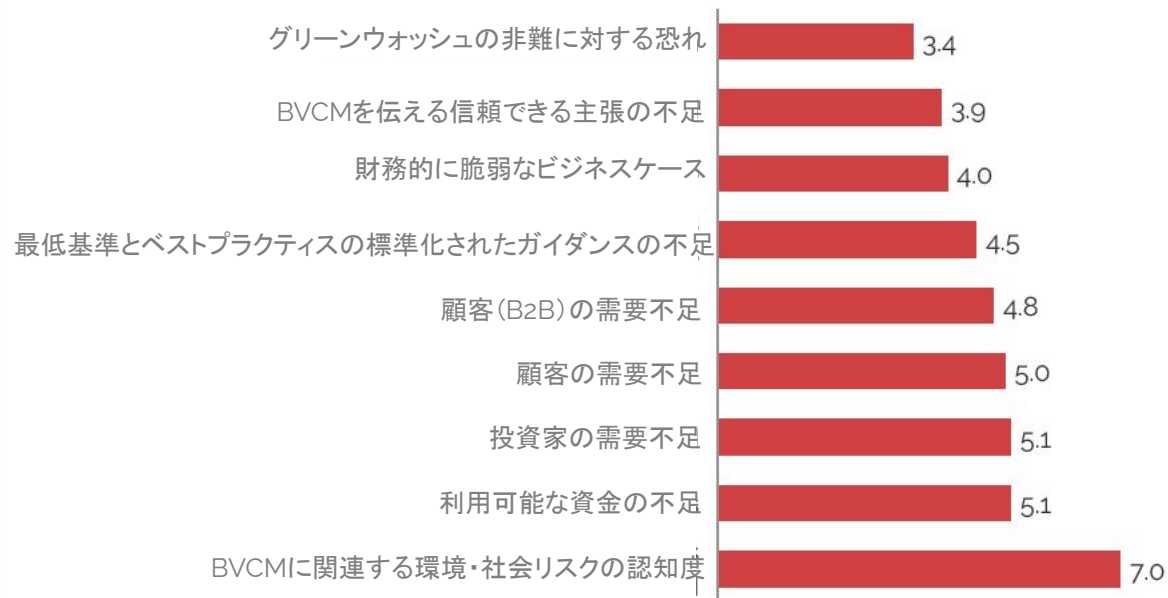
ビジョン

社会を動かし得る数(クリティカル・マス)の企業が、科学的根拠に基づく目標にとどまらず、BVCMに資金を提供し、BVCMを実施することで、気候変動の危機に対処するための資金と緩和策に多大な貢献をする。

SBTiは2023年に、企業がBVCMを採用する上での障壁とインセンティブに関する調査を実施

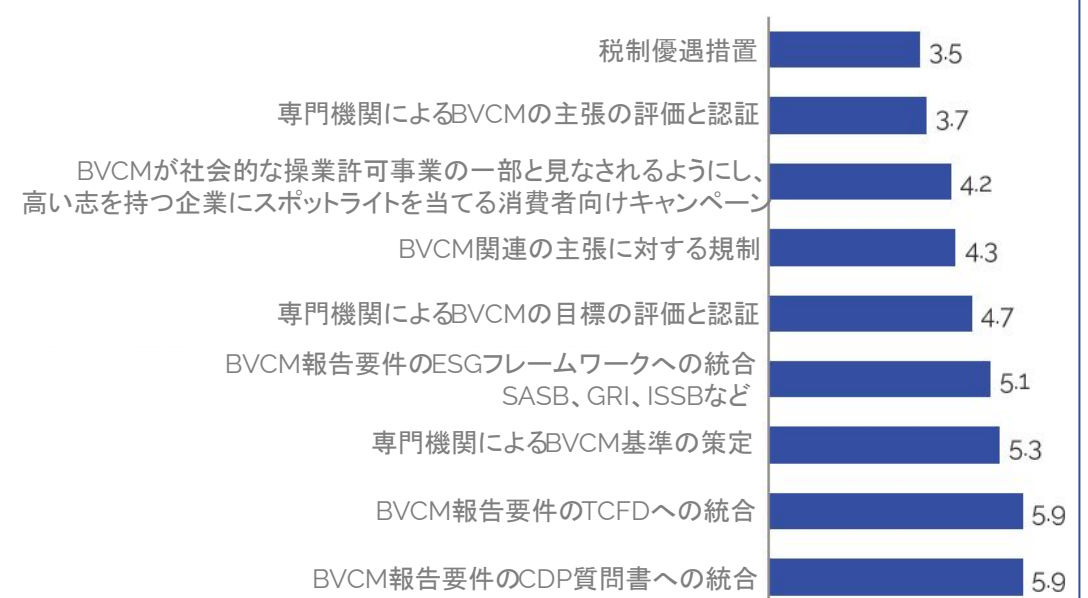
企業、金融機関、中小企業は、BVCMの資金提供の最大の障壁として、グリーンウォッシュの非難に対する恐れと、BVCMの主張の信頼性の欠如を挙げています

企業、金融機関、中小企業の障壁ランキング(平均値)
数値が低いほど、障壁がより大きいことを意味します

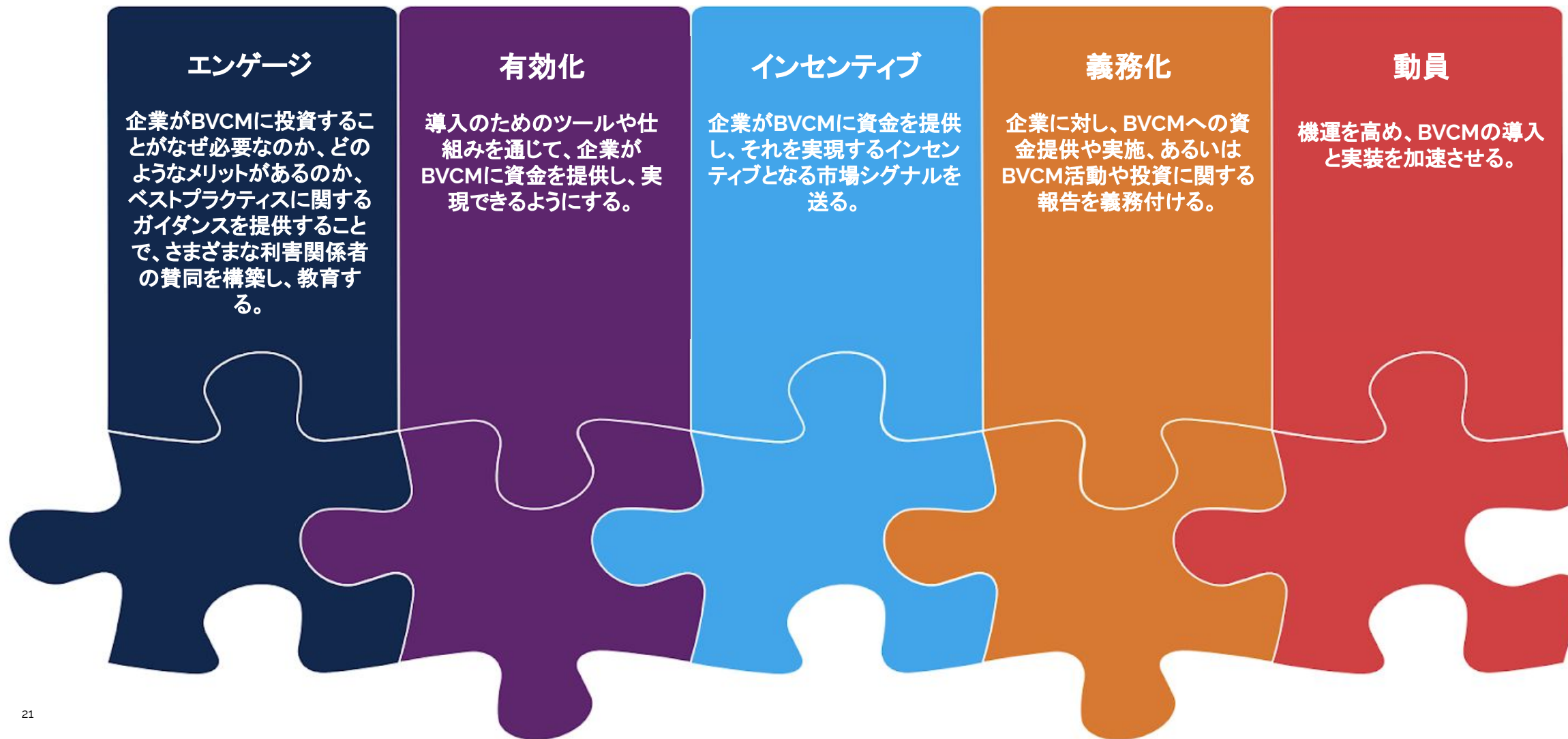


BVCMの資金提供を促進する潜在的影響の点で、税制優遇措置とBVCM主張の評価が新たなインセンティブのメカニズムの上位に挙げられています

企業、金融機関、中小企業のインセンティブランキング(平均値)
数値が低いほどインパクトが大きいインセンティブであることを意味します



この研究に基づき、SBTiは障壁に対処し、企業のBVCMにインセンティブを与えるツールボックスを提案しています



このレポートは、企業のBVCM導入を加速させるために、さまざまな主体が実施できる行動の種類を示しています



ゲストスピーカー

ゲストスピーカー (午前の部)



Owen Hewlett
(オーウェン・ヒュー
レット)

ゴールドスタンダード
最高技術責任者



Mark Kenber
(マーク・ケンバー)

VCMII
エグゼクティブディレクター



Eron Bloomgarden
(イロン・ブルームガー
デン)

Emergent
最高経営責任者

ゲストスピーカー (午後の部)



Owen Hewlett
(オーウェン・ヒュー
レット)

ゴールドスタンダード
最高技術責任者



Mark Kenber
(マーク・ケンバー)

VCM I
エグゼクティブディレクター



Edwina McKechnie
(エドウィナ・マケックニー)

Emergent
エグゼクティブバイスプレジデ
ント、コーポレートエンゲージメ
ント

質疑応答



閉会

SBTiの最新リソースで、より詳しい情報をご覧ください。

<https://sciencebasedtargets.org/beyond-value-chain-mitigation>

「さらなる高みを目指して」エグゼクティブサマリー翻訳版



ありがとうございました

Science Based Targets Initiativeは、イングランドおよびウェールズに登録されている慈善団体（1205768）であり、イングランドおよびウェールズに登録されている有限会社（14960097）でもあります。登録住所は First Floor, 10 Queen Street Place, London, England, EC4R 1BEです。

SBTI Services Limitedはイングランドおよびウェールズに登録された有限会社（15181058）で、登録住所は First Floor, 10 Queen Street Place, London, England, EC4R 1BEです。

SBTI Services LimitedはScience Based Targets Initiativeの100%子会社です。

 sciencebasedtargets.org

 [@ScienceTargets](https://twitter.com/ScienceTargets)

 [Science Based Targets](https://www.youtube.com/ScienceBasedTargets)

 [/science-based-targets](https://www.linkedin.com/company/science-based-targets)

 info@sciencebasedtargets.org